



Soleil

ALPHA PLUS

D.Gray-man only book



片付いたか
アレン？

ええ
そっちな？



レベル1なら
数が多少多くても
敵じゃないさね



そうですね
少し疲れますけど

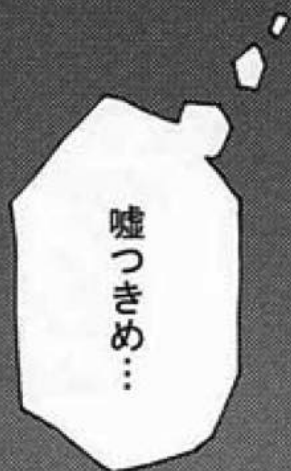





なーんで俺しかいねーのにフードかぶるんさ




?




「あの時」からずっと
アレンと俺との間に引かれた境界線が消えない




お前の
その左眼の
せいかな？




あれからずっと
アレンは真っ直ぐに
俺を見ようとしな



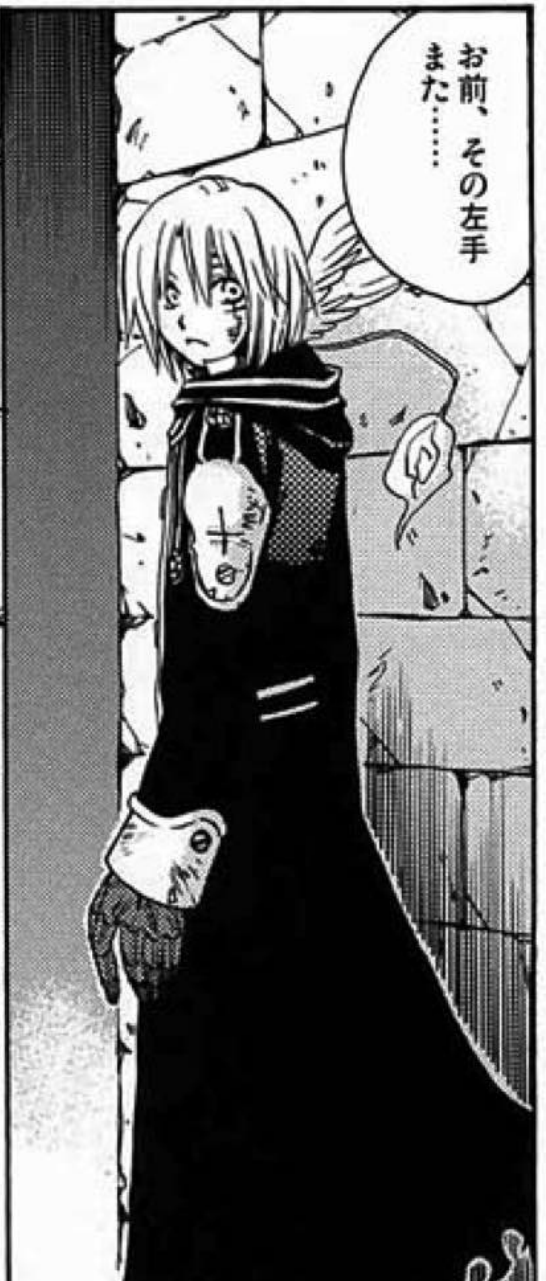
傷ついても辛くても
決して俺達に
弱味は見せない



俺の中にある
ほんの少しの
恐怖と嫌悪感



それを感じ取り
踏み込まれない
ように壁を作る





おかしい
ですよ



でもそれで
生きているんだなあ
って実感できるん
ですよ



ああ

ちゃんと
息をしている
って

それに多少痛い
くらいが安心
できるんです



アレシ



はい

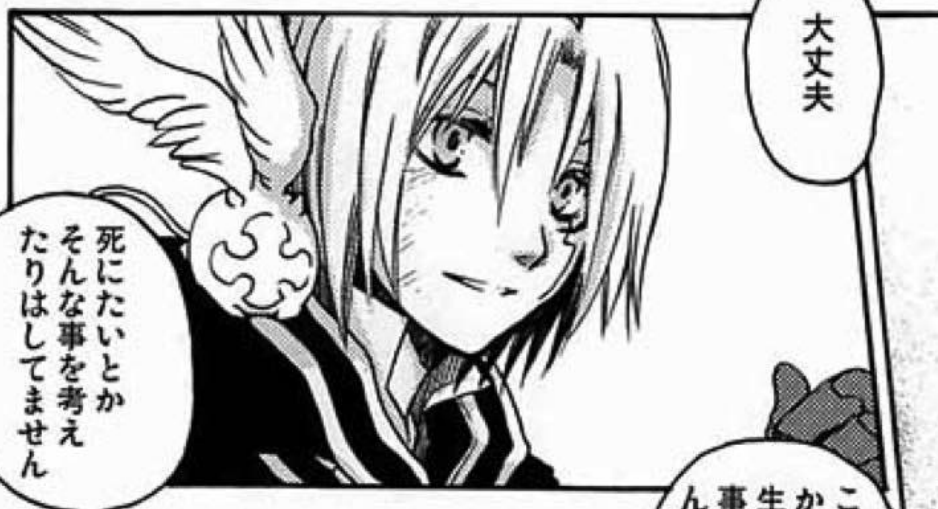


うん…
ラビならそう言う
と思いました



それだけで
完結させるなよ

痛みが生きている
証になるだとか…
そんなこと馬鹿げてる



大丈夫

死にたいとか
そんな事を考え
たりはしてません



ラレ…



この痛みがある
からこそ
生きているという
事を実感できる
んです

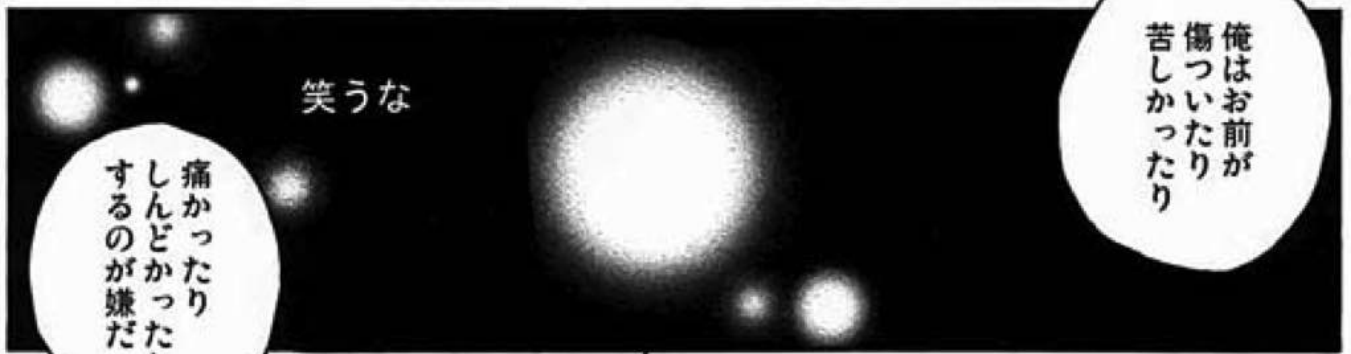
……

ただ……
それだけの事
なんですよ…

まるで 何かに魅入られた 狂信者のようだ



.....
そんなの
俺には判らない
さ！



俺はお前が
傷ついたり
苦しかったり

痛かったり
しんどかったり
するのが嫌だ


笑うな




何かに縋って
生きていく事が
悪い事だなんて

そんな事
言うつもりは
ねえよ


そんな風に
諦めたように笑うな




あの時の俺の言葉で
お前が離れようと思
った事も




全部わかってる



…それでも



頼むから
お前だけで生きてる
とか思うなよ



なあ、アレン

私達 何のために仲間なの？





立ち止まるな

僕は前に
進まないと
いけないんです

…ねえラビ



歩き続けろ

約束したんです

構わないで
くれと



そいつの
よじに笑つ

だから
大丈夫です

傷つくのなんて
全然苦じゃない
んですよ



.....

大切なもの一つだけ



時々お前の事を
どうしようもなく
嫌いになりそうな
時があるさ

殴って傷つけて

それ以外は必要ないと
自分の中に存在させ
ようとしないお前が

無理やりにも
俺が目の前に居る
んだって事を
判らせてやりたくなる




……ラビ






それでも……!



痛みなんかで
理解させて
やるもんか

強く 強く 抱き締める




ラビ……

放して
下さい……

嫌だ!

縫れるものがあるんだと伝える為に



絶対に
放したりしない

痛み以外にも
存在するんだと
いうことを

……いふは





触れてくる指先は 微かに震えていた

それが怯えなのか どうかは判らないけれど





縫るように伸ばした手を握り締める

その存在にお前が気付くまで

この手は決して 離さない

マゾ攻ラビ × サド受アレンが好きです（のっけから…）
そういう話を描こうと思ったのですが、ただの後ろ暗い
話で終わってしまいました。
また機会があれば、もう少し掘り下げた長いお話を描き
たいと思っています。



Soleil

男の癖によく泣くとか
素直そうに見えて実は
物凄く意固地で頑固者
だったりとか



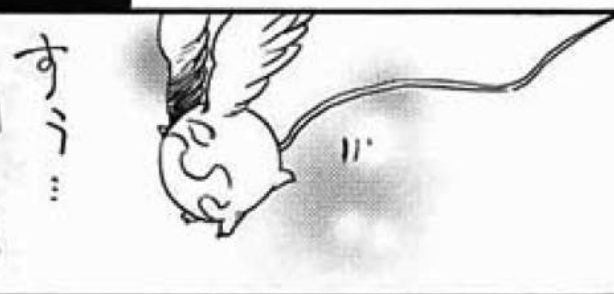
淋しがり屋の癖に
自分からは絶対に
寄って来たりは
しない所とか

なーんで
こんな森の中に
いるんだろーな

ティム
アレンはどの
辺りにいるさ？

今日、任務から
戻って来ると
前もって伝えて
あるってのに







疲れてるん
かなあ…

よく寝てんなあ
……ぐっすりさ

じきに……

ホームに
いるってのに



あ
睫毛も白いさ
……

ペンタクルが
濃くなってきて
いる……

まるで彼自身を
追い詰め侵食して
いくかのように

少しずつ周囲に
滲み色濃くなって
囚われていく





…疲れて
いるのかな



それにしても
コレは何?



空が近い
陽が落ちてくる

赤…

オレンジ色
なんだか
ラビの髪の色
みたいだ

惹き込まれるような 太陽に似た色



俺には
アレンの色に
見えるよ



平和そーな
アレンの寝顔見て
たら釣られたさ

のびー

おはよう?

んー…



でも、まあ…

おかえりなさい
ラビ





ただいま
アレン

柔らかく笑う その姿に
喪失感を覚えるのは 何故だろうか



そろそろ
戻りますか

そっすね...

ところで
僕の手を縛ってる
マフラーに何の
意味が？

えー？アレンを
縛って離さない
みたいなのー

今夜は
そういうプレイで
頑張っちゃうぞ★
みたいなのー

強すぎる光から
目を逸らすように

惹かれながらも
踏み込めずにいる



遠い何かを懐かしむように

緩やかに 曖昧に

俺を 踏み込ませないよう

笑う



Soleil

2005年8月13日 初版

8月31日第二版

maihizuki ALPHAPLUS

D. Gray-man Only Book

オークションへの出品、関係者の閲覧は
出来る限り御遠慮ください

MAI HIZUKI
ALPHA PLUS

